

# 種智院大學 同窓會報

第20号

平成8年10月30日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545  
種智院大学同窓会

## 平成8年度総会開催・新役員改選

平成8年5月27日(月)、今年度総会を母校講堂にて開催。恒例に従い、同窓会物故者慰霊法要を挙行。経頭は、出席者中最長老の石原高喜師(昭和15年)。法要の後、開会が宣せられ、会長・池田瑩輝猥下より、開会の挨拶が述べられた。池田会長は、荒れた昨年を顧み、今年が干支の第一年の子の年であることを述べられ、今総会の意義について示された。第一に役員改選期にあたり、これからの同窓会の諸事業への展望を示す大切な意味があること、第二に記念講演に今春再選された今井学長を迎え、母校の将来計画についてその所信をお聞きして、われわれが母校の将来に寄与できることは何かを考えたいとされ、今総会の意義を強調された。

次に、来賓挨拶には、学園理事長・真言宗長者・吉田裕信猥下が所用により遅れられるため、母校の学長・今井圓明猥下がたたれ、三月に学園理事会において学長に再選されたことを報告、詳しくは講演にて述べたいが、再選にあたり、母校の将来について明確な構想と綿密な計画をたて、ゆるぎない基盤の形成にあたる旨、挨拶された。

続いて、議事に入り、東田教範師(西中国支部長)を座長に進出。①平成7年度事業報告ならびに平成7年度決算報告(監査報告を含む)について審議。監査・川村俊朝師(泉涌寺寺務長)より決算が適正になされていることが報告され、原案を承認。②平成8年度事業計画ならびに平成8年度予算の審議に入り、昭和63年に発行されて以来の「同窓会名簿」の編集・発行についての予算が計上され、これらを含め承認。③役員改選については、昨年度総会にて選出された役員候補選出委員会を代表して田中実道師から委員会の審議経過が報告され、会長には現会長の池田瑩輝猥下をお願いするのが最も適切であるとの委員会の一致した見解により、三度の就任を要請した。池田猥下は固辞されたが、後任の方を見出しがたい状況に

もご理解頂き、後任の方を次の任期の課題とすることをご了承頂いた旨、報告があった。副会長、幹事等の構成については、本山、卒業年度のバランスをはかって候補者を上げたことも報告。この役員候補選出委員会の原案について審議、原案のとおり承認(役員名簿は2頁に掲載)、以後4年間の同窓会の運営についてお願いすることになった(任期は平成12年3月まで)。④同窓会名簿編集委員の選出について、平成8年度予算の承認により、名簿編集委員を選出し編集方針を確立し、遺漏なきよう名簿を作成すべき旨、提案理由が説明され、委員の方には京都専門学校時代の方と新制大学時代の方、大学の教職員の方等をふまえた人選であることから、次の方々の提案があり、了承された。

京専・田中実道師(昭和22年)  
川村俊朝師(昭和22年)  
江坂宗純師(昭和22年)  
大学・北村太道師(昭和33年)  
嶋 裕海師(昭和45年)  
北尾隆心師(昭和57年)

以上、総会の議事は終了し、引き続き今井圓明学長の記念講演となった。在学生も参加し、会員とともに母校の将来構想に耳を傾けたことであった。(講演の要旨は3頁に掲載)なお、講演中に吉田裕信猥下が到着。終了後ご挨拶を頂き、学園の発展のため、今井学長、田中純應洛南高等学校長とともに、同期生が三本の矢のたとえのように、一致協力して運営にあたっている旨、挨拶され、会員一同の絶大な拍手があった。

最後に、種智院大学密教資料研究所から、長谷寶秀先生の著作集についてのお願いがあり、総会は、副会長森見章師の挨拶で終了。

懇親会は、バスにて全日空ホテルへ移動。同窓会創設以来副会長の要職にあり、今回参与とされた手嶋千俊師の挨拶からはじまり、なごやかな

うちに、閉会。閉会の辞は田中純應洛南高等学校  
長がされた。

出席者 (順不同・敬称略)

多田 隆信	石原 高喜	井上 紀生
桑田 善照	森田 龍雄	手嶋 千俊
江坂 宗純	川村 俊朝	澤 実英
田中 実道	斎藤 長久	蓮 沼 雅春
法本 弘文	森 見章	本田 隆保
手塚 利貞	安田 頼盛	吉田 裕信
今井 圓明	田中 純應	東田 教範
神野 龍幸	小笹 憲雅	加藤 亮匡
内藤 信道	佐伯 龍幸	石坪 昭真
池田 瑩輝	加門 得勇	豊福 光禅
田井 秀戒	足立 有教	開田 清治
稲塚 信海	福島 龍暉	住田 行範
北村 議臣	高松 龍暉	井上 亮淳
北村 太道	土屋 博秀	田畑 祐弘
嶋 裕海	有井 良随	孤溪 正信
都筑 大乘	守安 英一	黒坂 堯榮
玉山 順彦	宮崎 幹大	川島 勝則
立花 祥成	北尾 隆心	宇垣 泰明
岩崎 豊海	東 常禎	阿刀 弘明
石山 陽律	松村 昌紀	沖田 憲信
湯通堂法姫	今井 淨圓	頼富 本宏
吉田 元	宮城 洋一郎	

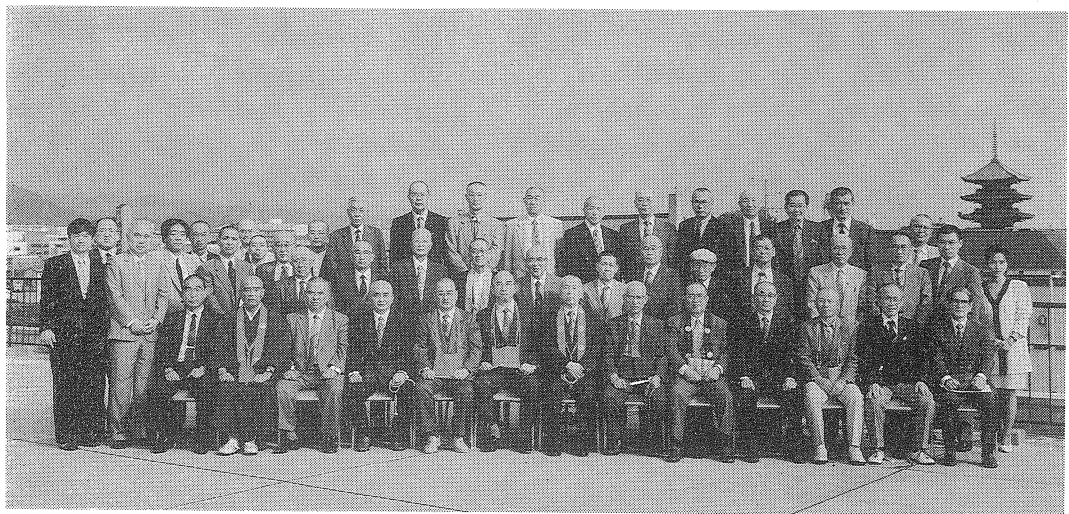
城光寺教進	谷口 光明	
参与 民岡 哲雄	江坂 宗純	手嶋 千俊
淵川 利昭	字賀 哲也	竹中 弘明
岩城 秀雄	新出 秀計	喜多村 龍鳳
寺河 俊禎	水谷 修夫	高見 寛康
監査 川崎 龍性	加門 得勇	
幹事 (北海道)小笹 憲雅	宮本 成雄	
(神奈川)中館 仙雅	峯 孝雅	
(関東)番場 実亮		
(東海)宇賀 哲也		
(北陸)瀧川 隆勝	井出 宝泉	北村 議臣
(滋賀)鷺尾 遍隆	澤 実英	
(京都)石坪 昭真	寶山 真海	宇喜多 隆教
川井 宏雄	嶋 裕海	
(大阪)田中 実道	土屋 博秀	法本 弘文
(兵庫)祝 宏友	北村 祐道	有井 良随
(奈良)佐伯 龍幸	村岸 定光	宮崎 幹大
(岡山)生駒 研性		
(西中国)江坂 宗純	鈴木 宏教	福島 尊光
山本 純一		
(徳島)畠田 禅峰	沖田 定信	
(香川)大林 教善	菅 智潤	
(愛媛)神野 龍幸		
(九州)森 光榮		
事務局 宮城 洋一郎	児玉 義隆	北尾 隆心
都筑 大乘	宇垣 泰明	沖津 祐照

新役員一覧 (順不同・敬称略)

会長 池田 瑩輝					
副会長 川村 俊朝	市橋 真明	足立 有教			
田中 実道	東田 教範	高松 龍暉			
森 見章					
顧問 吉田 裕信	田中 純應	小松 道圓			
筑波 常遍	上井 寛圓	高吉 清順			
今井 圓明	小林 隆仁	井上 紀生			

本山協力委員

川井 宏雄	((総)仁和寺)
宇喜多 隆教	((大)大覚寺)
田中 祐弘	((総)醍醐寺)
市橋 朋幸・渡辺 恭章	((総)泉涌寺)
西田 義範	((大)中山寺)
有井 良随・国定 道晃	((大)清澄寺)

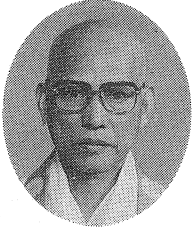


平成8年度 種智院大学同窓会総会 (平成8年5月27日 於 種智院大学)

平成8年度同窓会総会 記念講演

## 21世紀をめざす種智院大学の将来構想

(要旨)



種智院大学学長

今井 圓明

## (1) はじめに

本年3月、真言宗京都学園理事会より、本学の学長に再選されました。再選にあたり、21世紀をめざす本学の将来構想について所信を述べさせていただきます。

皆様ご承知のように、本学は綜芸種智院の名を体した栄光の歴史を持った大学でございます。近代においては、仁和寺第三十三世門跡や勸修寺門跡等を歴任された釈雲照律師により「総贖」として出発いたしました。雲照律師は、廃仏毀釈の時代にあつて、御修法の復興をされるなど、真言宗の復興に欠くことのできない功績のあった方です。そして、明治38年京都専門学校認可を受け、学校教育制度に立脚した高等教育機関となり、昭和24年には新制大学の認可を頂き、今日を迎えたわけです。

新制大学発足時は、亀谷宥英学長のころであり、先生は大学認可のため大変な努力をされ、校舎の充足、図書の実充にたいしても、相当の無理を重ねられて、他の旧制の専門学校と同じように比較的早い段階で、文部省の認可を得たのであります。以後、極度に学生数の少ない時期もあり、大学経営には厳しい冬の時代が続いていました。

## (2) 現況とその課題

本学は、新制大学発足時より定員40名のままでありましたが、私が学長に就任した平成4年の前年に、臨時定員増40名が認められ、現在は入学定員80名であります。したがって、4学年で320名の定員となり、実際は、認定されている水増し率に準じて、約470名の学生数を擁する規模となっております。しかし、この臨時定員増は、第二次ベビーブームに対応したもので、建物や土地についても厳しい条件を課すことなく定員増を臨時に認めるものであり、平成11年3月までという条件が付けられています。この平成11年の18歳人口は、平成5年に比べて約半数ということで、本学においても、このままだと平成11年には、定員がもと

の40名となり、4学年で160名の規模に戻らなければならぬのであります。

終戦後から今日にいたる50年余に、京都の仏教系大学は、めざましい発展を遂げています。私が本学に入学した戦後まもなくのころ、佛専(佛大)や臨済宗専門学校(花園大学)に卓球の試合に行きましたが、どこも本学と同じ規模でありました。私は、本学卒業後龍谷大学に進みますが、この大学は、当時1500人程度の規模でしたが、今日では、その十倍以上の17,000人の規模となっております。佛教大学を今日の姿に発展させた水谷学長(当時)は、通信教育課程が約30,000人の学生を擁することを強調されておりました。また、花園大学の盛永学長(当時)は「学生がこの学校を建ててくれました」と述べられ、学生数の増加が発展の重要な要因であると言明されています。

やはり、大学を経営するということになると、規模の経済というべきものが働くといわざるをえません。大学の安定経営には、ある程度の人数をかかえていないとやっていけません。

## (3) 全真言宗構想について

こうした観点から、学内において議論をし、現在の臨時定員増による80名に若干増員した1学年・100名の定員ではどうかと考え、文部省に相談に行きました。ところが、文部省の係官のかたは「100名で本当に経営できるのですか、この際、きちんと将来を見越しておくように」との助言を頂いたわけです。

とにかく、規模の経済ということは考えないといけません。とすれば、本学にどのような方法が残されているのだろうかを熟慮したわけです。そこから、全真言宗大学構想というものを考えてみようということになったのであります。ご承知のように、本学は14の本山を母体に経営されています。ところが、真言宗には18の本山があり、高野山真言宗、智山派、豊山派、新義真言宗等がさらに加わるわけです。その本山のひとつ新義真言宗から平成6年に、宗門の後継者養成の機関のひとつに種智院大学を位置づけ、その経営に協賛し、毎年200万円の協賛金を拠出する旨の申し出があり、本学もこれを全面的に受け入れ、経営本山と協賛の本山という体制が出発したのであります。これを契機に、私は何度も東京に出向き、豊山派の吉田管長、川田総長、小野塚教学部長(いずれも当時)のみなさんとお会いし、豊山派の子弟は是非本学に入って頂きたい、また経営

にも協賛頂きたいことをお願いしたわけでありませう。しかし、豊山の重役の方々もなかなか「わかりました」とは言いにくい。なぜなら、内局も宗会もみな大正大学の出身だからであります。ところが、これよりすこし前に、大正大学は仏教学部の看板をおろし、人間学部とし、受験生の大幅な増を実現させたのであります。このために豊山派、智山派等の宗門の子弟は大学に入れないという深刻な事態が生じていたのであります。このような事情もあって、ついに「あんたの話もいっぺんゆっくり聞こう」ということになりました。

その結果、内局の方々の並々ならぬご努力を頂いて、豊山派の規則の一部を改正して、宗門の後継者養成の大学に種智院大学を加え、協力金を毎年500万円拠出することを宗会において可決して頂いたのであります。智山派も、豊山派の動向に鑑み、300万円の協力金を本学に拠出する旨、お話しを頂いております。こうして、高野山真言宗を除く各派が本学に協賛の姿勢を示し、積極的に宗門子弟の教育に関心を寄せて頂いたのであります。

こうなれば、お金だけの問題ではすみません。新義の方は声明、法式が、古義とは異なるわけで、豊山派からも声明、法式あるいは豊山史の科目を設置してもらいたい旨の要望もあり、本学もそれに応えることにしたわけでありませう。こうして古義の学生をはじめ、新義の学生もすべての真言宗の子弟が、同じく学べる場をここに実現しようというわけでありませう。

#### (4) 仏教福祉学科の設立

このような経緯もあって、本学の全真言宗構想は具体的な出発を果たしたのであります。このことが、本学の基本構想を意味づけることになり、仏教学科定員90名、仏教福祉学科定員70名の合計160名でもって、新たな拡充をはかろうというわけでありませう。現在は400人程度の受験生があり、在学生の半数を超える学生が仏教福祉学コースを選択しております。その点で、仏教福祉学科の独立は必要なことであります。まったく別の新しい学科をつくるべきだという考えもありますが、やはりここは、従前のコースを踏まえ、その拡充をはかることが堅実な方法だといえます。

ご承知のように、宗祖弘法大師は万農池を修築し、益田池の造営にもそれを讃える詩文をつくられ、社会的実践にすばらしい実績を残されています。この精神を継承し、本学に仏教福祉学コース

が設立され、今日では実習教育にも力を入れ、多くの成果を上げています。先般も実習施設の方々と懇談のなかで、「種智院大学の学生さんは他の大学の学生とは違いますね。日曜日にも来てくれてお風呂の介護をしてくれます」と大変な評価を頂いております。昨年の阪神・淡路大震災のおりも、多くの学生諸君が神戸をはじめさまざまなところへボランティア活動に行きました。

これらの点で、仏教福祉学コースの成果はあがっているというべきであります。これらにより、新学科として仏教福祉学科を独立させようということになりました。

#### (5) 宗門後継者養成について

宗門後継という点では、一昨年来、学園加行をおこなってきました。後継者育成の鍵は、なんといっても事相の勉強にあるわけで、本学の加行は大覚寺様のご協力を得て、夏期と春期に分けて実施しております。特に、90歳を越えられている上井門跡さんのご指導を頂いていることは、大変ありがたいことだと感謝申し上げます。本学の加行は、二食を基本にし、午前2時半の起床、午後9時の就寝の間、三度の行と例時勤行をやっていきます。これは、充実した内容のものであるといささか自負するところであります。

#### (6) 教育・研究の充実

大学には二つの任務があります。教育と研究であります。今後の大学は、大学院大学の意味を次第に強めていくとされています。確かに、高野山大学をはじめ各宗門大学には大学院があり、本学においても将来的には大学院の設立を考慮すべきだと考えています。ここをひとつの目標に掲げて、充実させることが必要であります。

次に、外国人留学生の受け入れですが、今年度、本学留学生の第1号としてネパール人留学生の入学を決定致しました。既に受け入れている社会人入学生とともに、文部省の今後の大学像の重要な位置を占めるこれらの問題の解決をはかったことで、学科増、大学院設立など本学の将来構想を支える側面が、できあがりつつあると思います。

研究面では、昨年密教資料研究所を創設し、その最初の事業に長谷寶秀先生の著作集の刊行をはかるべく準備を重ねております。長谷先生は昭和23年(1948)に逝去されていますから、来る50回忌の記念事業に完成できればと考えております。

教授陣の充実も、教育・研究の両面にわたって重要なことであります。弘法大師の「綜芸種智院

式」にも若い学生にたいして慈悲の心をもって、わけへだてなく諄々と教えよと述べられています。しかるに、本学に4つのコースがありますが、あるコースだけ極端に学生数が少ない。そのコースでは、卒業予定学生のうち半数が留年になるという事態もおこっています。そこで、希望する学生が少なく、卒業もできないようでは、どのような指導をしているのか、疑われるというもので、わたくしは怒ったのです。無責任な指導をしてはならないこと、「綜芸種智院式」の示すとおり、建学の精神を遵守すべきことを。また、こうした効率のあがらないコースの持つ意味がどれほどあるのかと、先生方に厳しく注意しております。

入試制度の面においても、積極的に改革を進めてまいりました。宗門後継者推薦入試を含めて推薦試験は、文部省の指導で入学定員全体の3割となっています。「寺の子はみな入学させよ」とのご意見もあり、また、寺院の方々の中には「種智院大学ならみな入れてくれる」との思いもありますが、決してそのようなことはございませんので、少しは勉強して頂かねばなりません。

学生の福利厚生については、残念ながら十分ではありません。しかし、そのなかで就職指導については、担当の先生に来ていただいて、しっかりと指導しております。仏教学科ということで、就職のための科目も十分ではなく、実業界での先輩の活躍もほとんどない状態で、指導する側も学生諸君も、その苦心は大変なものでありますが、今後、充実に向かうものと確信しております。

#### (7) 新キャンパスを求めて

学生の福利厚生面での遅れは、とりもなおさず校地の不足からくるものであります。昔はこの大学も校地がきちんとしていたのであります。東寺の北門にある亀池の横に広がる土地は、明治のころに当時の大徳方が集まって真言宗僧侶養成のために「勸学財団」を創設し、確保した地であります。今は、洛南高等学校のグラウンドに使用され、大学の建物はおかねなくなっています。そして、現在の大学の校地は東寺の土地を借りたものであります。従いまして、本学が将来において充実した構想を樹立せんとすれば、何よりも大学自前の土地を確保することが必要であります。

そのため、将来構想の必須の課題として、わたくしたちは京都市内を中心に幾多の土地を求めて検討してきました。このときの基本は、現在の本

学が京都駅から徒歩15分のところに位置していることでもあります。やはり、京都駅から15分の圏内であることが、今後の学生募集からみても、重要だと思えます。如何に恵まれた環境であっても、学生の通学に困難をきたすならば、大学の将来そのものもないとみなくてはなりません。

この観点から、現在、近鉄電車の沿線にある向島駅について検討しております。ここは京都駅より約15分の位置にあり、その駅から徒歩5分のところの土地について仲介があり、交渉を重ねております。京都駅からの所要時間といい、駅から徒歩5分の至便さ等は、通学する学生にとっても魅力あるものといえましょう。この地に大学設置基準に適合した広さの土地を確保し、そこにはグラウンドや体育館も建設したい。現在、洛南高校は亀岡グラウンドを使用し、行事にさいして、バス移動しており、その不便さを聞き及んでおり、この新しいグラウンドを大学、高校すなわち学園の共用としたい。ここならば、高校生も現地集合ができるわけで、大変都合よいといえましょう。

#### (8) 財務計画

それでは、この将来構想にたいして、どのような財源を考えているのか。現在の計画ではおおよそ40億円の規模を考えています。「そんな莫大な金額が用意できるのか」と疑問を持たれるかと思いますが、もちろんそのようなお金は即座に用意はできません。私学振興財団からの借入が必要です。その借入金は18億円を考え、残り22億円は、真言宗京都学園全体で対処していかなければなりませんし、有縁の方々のご協力も仰がねばならないと思えます。

それでは、現在の校舎はどうなるのか。この計画では、全面的な移転ではなく、一部を残し、同窓会をはじめとした皆様方の基金が結集されたこの校舎を生かしていきたいと考えております。1・2階は洛南高校・中学が使用し、3階は密教資料研究所、公開講座、さらに将来設立されるであろう大学院の校舎としたい。

さて、借入金であります。その返済は約20年で、その返済のためにも、学生数の確保と教育・研究の充実は必須の課題であります。

21世紀を目前に控え、ようやく軌道に乗った本学の基盤を、今後さらに発展させ、本来の姿を樹立すべく、この構想を皆様へ提出しました。

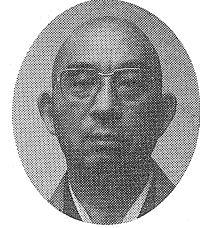
以上のような趣旨をご理解賜わり、いっそうのご支援を頂きたいと思えます。

**理事長 吉田裕信 下 真言宗大阿**

平成8年、後七日御修法は総本山仁和寺門跡、真言宗京都学園理事長 吉田裕信 下大阿闍梨のもと真言宗各山山主、ならびに各山推薦の高僧方が参籠・厳修され、1月14日に無魔成満。今般の御修法の配役の内、本学関係者は次のとおり。

(順不同、敬称略)

大阿 吉田 裕信 (理事長・昭和24年)  
 息災 野澤 密巖 (本会賛助会員)、伴僧 麻生 文雄 (前学長)  
 舍利守 石堂 恵教 (本学園理事)、伴僧 高吉 清順 (昭和19年)  
 伴僧 足立 有教 (昭和28年)、定額僧 高井 隆秀 (本学名誉教授)  
 承仕 小田 信明 (昭和60年)、長岡 誠宏 (平成6年)  
 赤塚 祐道 (平成6年)、岩崎 豊海 (平成元年)  
 随行 飯田 俊海 (平成2年)、小林 孝純 (平成2年)



吉田裕信師

**善通寺法主に高吉清順大僧正  
新内局が発足**

平成8年3月1日、真言宗善通寺派定期宗会において、蓮生善隆管長の勇退による後任に宗務総長・高吉清順大僧正 (昭和19年) の就任が承認された。同日、高吉管長は、後任の宗務総長に椋原禅澄師を指名。

この新内局には、庶務部長・大林教善師 (昭和47年) が留任、財務部長・菅智潤師 (昭和47年) が新たに任命された。

高吉清順 下は、別格本山曼荼羅寺住職、平成6年に宗務総長に就任。現在、讃岐学園理事、善通寺市吉原公民館運営審議会委員、同市民生児童委員等も勤められている。なお、5月30日に晋山式が挙行され、今井圓明本学学長、平井香川県知事、宮下善通寺市長の祝辞など盛会をきわめた。

大林教善師は、善通寺市甲山寺住職、善通寺派青年会長、全真言宗青年連盟副理事長、四国霊場会理事等を歴任、平成6年に現職に就任、讃岐学園評議員等の要職にある。なお、高吉清順 下の法主就任にともない、同窓会香川県支部長に就任。

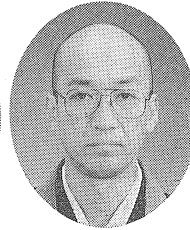
菅智潤師は、香川県詫間町円明寺住職、善通寺派青年会長、教学課長兼財務課長を歴任、現在讃岐学園評議員も勤める。



高吉清順師



大林教善師



菅智潤師

**西大寺長老に谷口光明大僧正、新内局が発足**

真言律宗では、松本實道長老の勇退にともない、後任管長選定の被選挙人の協議により平成8年3月2日、宗務長・谷口光明師 (昭和24年) を推戴、4月1日付で就任となった。同日に、新内局も発足、執事長・教学部長に佐伯龍幸師 (昭和24年) が就任された。

谷口光明 下は、名張市本要寺住職、真言律宗財務部長、庶務部長を歴任され、昭和61年宗務長に就任。西大寺幼稚園、源氏ヶ丘幼稚園、光が丘幼稚園の園長を勤め、幼児教育の推進の功により昭和58年藍授褒章、平成6年勲五等双光旭日章を受章。なお、晋山式は6月25日に挙行され、吉田裕信真言宗長老・本学園理事長、大川奈良市長等の祝辞があり、本学より頼富本宏学部長も列席し、盛会であった。

佐伯龍幸師は、西大寺塔頭清浄院住職、宗会議員を経て、昭和61年より教学部長を勤め、現在に至る。なお、佐伯師は今年度より本学園評議員・同窓会奈良県支部長に就任されている。



谷口光明師



佐伯龍幸師

**手嶋千俊師、叙勲祝賀会** 同窓会前副会長（現参与）手嶋千俊師（昭和20年）は、今春の叙勲において、勲五等双光旭日章を受章。永年にわたる日本いけばな文化の普及振興に貢献した功績によるもので、この叙勲の祝賀会が、平成8年7月21日、京都全日空ホテルにて開催。全国から門人、関係者 230 余名が出席し、盛大な会となった。

**池田瑩輝会長「密教教化賞」受賞** 平成8年7月26日、各山会第三回定例常任委員会において、「密教教化賞」の受賞者が承認され、同窓会長池田瑩輝猥下の受賞が発表された。長年にわたる世界連邦平和運動を通じて日本密教と他宗教との交流を深め、国際的な視野にたつ宗教活動の功績によるものである。表彰式は、各山会と真言宗布教連盟の共催により、11月4日、総本山西大寺にて開催。

## ■訃報

角田 学禅師(昭和15年)平成7年1月11日御逝去  
兵庫県豊岡市東楽寺  
永幡 智泉師(昭和14年)平成7年7月18日御逝去  
岡山県英田郡靈山寺  
熊野 弘之氏(昭和15年)平成7年9月14日御逝去  
京都市南区  
佐藤 秀明師(昭和12年)平成8年2月8日御逝去  
高野山真言宗大僧正、同窓会参与。広島県福山市福盛寺名誉住職  
小池 義人師(賛助) 平成8年2月15日御逝去  
大本山須磨寺貫主、真言宗京都学園理事  
後藤田寛昌師(昭和12年)平成8年8月3日御逝去  
佐賀県武雄市光明寺住職  
元高野山真言宗宗会議員  
大塚 廣高師(平成6年)平成8年8月16日御逝去  
香川県国分寺副住職  
佐久間智観師(昭和14年)平成8年9月24日御逝去  
神戸市北区太福寺住職

## ◎同窓生短信 (順不同・総会出欠回答より抜粋)

城光寺教進師（昭和10年）元気一杯雑務に追われています。総会には教誨師総会のため残念ながら出席できません。

天野 雪城師（昭和15年）  
義仲寺は武将と翁春分かち  
木曾塚のもの古し塔春廻る  
野猿群比叡のお山春間近か

蔵本 亮弁師（昭和16年）護摩供大祭の前日で、総会には出席出来ません。昭和45年から経営の密苑「菩提樹苑」も基数5000基を超え、墓苑の模範的経営として厚生大臣の表彰を受けた。

安室 舜海師（昭和17年）高野山駐在布教のため総会に欠席します。

萩野 泰舜師（昭和19年）同窓の高吉清順 僧正が普通寺法主となり喜んでます。私もおかげさまで元気です。

野路井宏之師（昭和23年）精神薄弱者 更生施設「彦根学園」の施設長として約16億円かけて施設を完成させましたので、3月31日付退職。現在は常務理事として法人の立場で後進の指導と運営にあたります。4年10か月の在職でした。

4月11日付で彦根市選挙管理委員長に選出。大同 徳和師（昭和24年）本年3月末で退職在任30年を経て引退致しました。

青山 昌憲師（昭和28年）三田警察署にて講演依頼のため総会には残念ながら出席できません。

平松 弘明常（昭和37年）母校の発展と同窓会10周年を祝します。現在、宗教教育の重要性を痛感しております。

樋浦 良弘師（昭和54年）会報には多くのコメントをのせて頂きたい。

渡辺 孝蔵氏（昭和56年）大陸出張中のため総会に残念ながら出席できません。

前納 法恵様（昭和61年 前納信義氏御母堂）平成8年1月『神仏に護られて』を出版。御母堂様の生涯と故前納氏の思い出をやさしく見守る感動の書。近代文芸社刊。（定価 1300円）

阪口 典子氏（平成元年）現在、英国留学中。

吉田 誠氏（平成3年）平成8年9月16日ご結婚。東和証券勤務。

桜井 秀明氏（平成8年）共同作業所の所長のため忙しくて総会に出席できません。

## 学院在籍中の方

中江 康明氏（平成5年）嵯峨伝灯学院

磯 定憲氏（平成8年）智山専修学院

神野 恵氏（平成8年）仁和密教学院

松尾 充雄氏（平成8年）仁和密教学院

平田 英昭氏（平成8年）醍醐寺伝法学院

## 所用・病気等のため欠席のご連絡を頂いた方々

木田宥岳師(大正10年) 谷田仁司師(昭和10年)

岩城秀雄師(昭和10年) 長谷川寛景師(昭和12年)

岸越秀憲師(昭和13年) 森 智堅師(昭和14年)

城光寺哲立師(昭和16年) 照本祥雲師(昭和17年)



新出秀計師(昭和17年) 片山宥雄師(昭和19年)  
 池田直鏡師(昭和20年) 滝川隆勝師(昭和20年)  
 飯塚孝尊師(昭和20年) 森田義寛師(昭和23年)  
 和泉恵弘師(昭和23年) 室寺節応師(昭和23年)  
 水谷光雄師(昭和24年) 児玉玄裕師(昭和28年)  
 宮本成雄師(昭和28年) 山本静澄師(昭和29年)  
 西谷智章師(昭和31年) 香川龍暁師(昭和31年)  
 向田雅昭師(昭和31年) 高倉弘謙師(昭和31年)  
 山内一秀師(昭和32年) 松村実秀師(昭和36年)  
 後藤啓之師(昭和46年) 国定道晃師(昭和50年)  
 長 弘隆師(昭和55年) 下津浩一氏(平成4年)  
 服部秀敏氏(平成6年) 沖野美智子氏(平成6年)  
 鷲田晶一氏(平成7年) 馬杉隆司氏(平成8年)  
 鷲尾隆輝師(賛助) 神保全孝氏(賛助)  
 福田泉正師(賛助)

((支部総会報告))

大阪支部

大阪支部総会は、平成8年5月23日、南海飯店にて午後6時より開催。支部長の田中実道師より開会の挨拶があり、また、大学より宮城洋一郎氏、都筑大乗師が出席、来る5月27日の総会の参加の要請が述べられた。総会では、平成7年度の活動報告、会計報告および平成8年度の活動・予算等について、事務局の土屋博秀師、玉山順彦師より説明があり、協議のうえ、満場一致で了承・承認した。例年のとおりの出席状況だが、今年3月卒業の方も出席されるなど、地道な努力が成果を示している。なお、来年度には新しい方向を考えてみる意見も提案されていた。

出席者(順不同・敬称略)

田中 実道(昭和22年) 蓮沼 雅春(昭和23年)  
 西端 良諦(昭和23年) 見城 芳行(昭和24年)  
 藤崎 信幸(昭和35年) 土屋 博秀(昭和37年)  
 玉山 順彦(昭和55年) 上田 豊宣(昭和55年)  
 見城 雅俊(昭和60年) 石山 陽律(平成8年)  
 西田 義範(昭和62年) 西諦 良弘(平成3年)

欠席の連絡を頂いた方(順不同、敬称略)

中塚 栄澄 谷田 仁司 萩野 泰舜  
 満谷 義泰 藤澤 宥彰 森田 義寛  
 法本 弘文 池永 禅光 大西 猛  
 中西 隆海 山内 一秀 小西 光延  
 吉田 恒雄 岸本 光彦 池田 賢生  
 佐野 剛空 川北 眞榮 森田 恭生  
 武村 尚夫 新川 健二 織 久寛  
 山本 学 古松 善隆 阪口 典子  
 藤崎 考幸 富田 敦史 川田 憲男

辻井 雅典 服部 秀敏 山口 耕史  
 古川 恵里 田島 茂樹 土田 信寿  
 田中 雄三 森田 祐弘 上田 みか  
 風呂 明宏 和田 貴英 北辻 克康  
 喜多 洋子 井久田季則 田中 浩次  
 原田 暢広

西中国支部

平成8年6月25日、正午より広島市のホテルグランヴィアー広島にて開催。支部長の東田教範師の開会挨拶から始まり、大学より嶋裕海法人大本部総務部長、吉田元大学入試部長から来賓挨拶を受け、議題に入る。まず、今年は役員改選期にあたることから、新役員案が提起され、満場一致で承認。新しい支部長には福島尊光師が就任することになった。つづいて、支部の状況と会計報告がなされ、了承。また、嶋裕海総務部長から母校の現状報告と将来ヴィジョンについての報告、吉田元教授から大学の入試状況の説明があり、活発な質問が交わされた。最後に、多田隆信師より閉会の辞が述べられ、懇親会に移った。

【新役員】(敬称略)

支部長 福島 尊光(昭和30年、山口県)  
 副支部長 多田 隆信(昭和13年、広島県)  
 山本 純一(昭和38年、山口県)  
 藤原 豊善(昭和49年、島根県)  
 常任幹事 鈴木 宏教(昭和50年、広島県)  
 増沢 寛順(昭和54年、島根県)  
 幹 事 八木 龍生(昭和24年、広島県)  
 豊田 修賢(昭和25年、広島県)  
 嶋田 真慧(昭和33年、広島県)  
 吉田 正裕(昭和58年、広島県)  
 蓮住 信慶(昭和52年、山口県)  
 松浦 妃女(昭和61年、島根県)  
 監 査 片山 宥雄(昭和19年、広島県)  
 嶋田 慈光(昭和47年、広島県)

出席者(順不同・敬称略)

多田 隆信 江坂 宗順 東田 教範  
 福島 尊光 山本 純一 増沢 寛順  
 [大学] 嶋 裕海 吉田 元

委任状提出者(順不同・敬称略)

藤井真禅 高橋隆進 伊東良巖 筒井清道  
 松崎隆雄 片山宥雄 桑田令仁 八木龍生  
 吉田裕信 豊田修賢 新宅 正 嶋田真慧  
 麻生照胤 吉田正裕 高取顕勝 多田真祥  
 新木孝典 藤原豊善 嶋田慈光



## 大学だより

### 平成7年度 卒業式

3月15日(金)、卒業証書・学位記授与式が挙行された。今年度は、93名の諸君が卒業された。式では、今井圓明学長のもとで、各コースの卒業生諸君の氏名が各コース主任より呼び上げられ、コース代表者に今井学長より証書を授与された。また、論文賞、学業賞、六大新報社賞、高野山出版社賞の授与が、頼富本宏学部長より授与された。また理事長吉田裕信宛下より、祝辞が述べられ、来賓各位の紹介もあり、盛大な卒業式であった。なお、卒業謝恩会は、京都国際ホテルにてなごやかに開催された。

#### 〔論文賞〕

植村 隆弘	小原 昌孝	沖田 憲信
湯通堂法姫	小城 秀全	戸田 秀明
酒井 広隆	和田 昌士	水野 浜代
大槻 達哉		

#### 〔学業賞〕

池田 真彦	小城 秀全	沖田 憲信
林 鷹美	若泉 博絵	

#### 〔六大新報社賞〕

美藤 貴弘	森川 真至	石戸 秀和
池田 法子		

#### 〔高野山出版社賞〕

東 知世子	石山 陽律
-------	-------

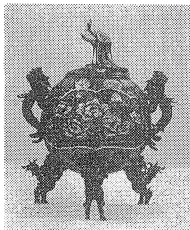
#### 〔玉蔵院賞〕

久野 有登

なお、平成7年度卒業生の進路状況は、就職37名、進学(大学院、専修学院、他大学編入等)17名、本学残留(研究生、履修生)15名、その他5名、未定19名であった。

なお、平成8年10月14日、平成7年度卒業生の皆様方から卒業記念として香炉が大学に贈呈された。これは、当年度卒業生が寄せた基金(96,000円)により謝恩会実行委員会をとおして贈呈されたものである。この記念品は、富山県高岡市の金工作家村田宏氏の製作にかかるもので、

同氏はこれまでに7回、日展に入選された現代を代表する作家であり、精緻をきわめた優れた作品



に今井圓明学長からも卒業生諸君に、感謝と御礼の言葉を寄せられている。

#### 今井学長(談)

「本当にすばらしい記念品を贈呈頂き、心から感謝しております。細部にわたって美を追求したこの作品には、大学を思う皆さんのお気持があらわれているようでなりません。永く大学の誇りとして保存していきます」

### 平成8年度 入学式

平成8年度の入学式は、4月10日(水)午前10時より、本学講堂にて開催。今年度の新入学生は120名。まず、今井圓明学長より、入学の祝辞と大学の将来構想が述べられ、新入生を代表して都真雄君が、宣誓・署名した。来賓を代表して吉田裕信理事長からの祝辞があり、新入生の感激がいつそう高まったことであった。なお、今年度から洛南高等学校音楽教諭科の先生方をお願いして、「三帰依文」と「種智院大学学生歌」の歌唱があり、本学への入学を一段と意義づけるものとなった。最後に、頼富本宏学部長より教員の紹介があり、新入生のスタートを力強く励ましたことであった。なお、今年度、本学はじめての留学生、シャキャ・スダン君(ネパール)も入学した。

式終了後は、新入生は、京都造形大学教授野田彰先生の「愛するものと別れ」の講演を拝聴、式に参列した保護者の方々へは、大学から入学にさいしての説明会がおこなわれた。

〔来賓〕理事長吉田裕信仁和寺門跡、川田聖定豊山派総長、東田教範東寺宗会議長、渡邊隆榮長谷寺総務執事、真保龍敏智山派教学部長、宮本真光醍醐派教学部長、手嶋千俊同窓会副会長、若槻繁隆豊山派総務部長、田中純應洛南高校校長、市川壽久学園会計顧問

### 弘法大師降誕会

6月15日、恒例の降誕会が盛大に挙行された。当日は午前8時30分に法要出仕者をはじめ関係学生が花御堂行列を行い、御影堂にて般若心経誦誦。大学講堂において今井学長の導師のもと降誕会法要を厳修。午後からは、落語家桂米裕府(岡山県多聞寺副住職)が「与太郎の仏道入門」を上演され、また、昨年に続いて、豊山派布教研究所渋谷隆阿師の節談説法「帰国後の弘法大師」などが行われ、多数の学生・一般市民が参加、盛会であった。

## 学園得度式

7月6日、学園得度式が本学講堂で行われた。今年度は16名の得度者があった。それぞれに緊張したなかにも、新たな出発を誓ったことであつた。

〔得度学生名〕 ( ) は僧名

東田 和仁 (和仁)	井上 敬司 (真明)
酒井 崇行 (崇圓)	文榮 友和 (本照)
岡本摩結子 (摩悠)	鈴木 宏昌 (亮要)
大槻 祥雄 (光瑛)	小川 永 (隆永)
亀山 博司 (勝弘)	清瀧 貴子 (隆智)
高橋 周佐 (宥周)	別府 広隆 (広隆)
堀口 弘憲 (弘憲)	足田 義尚 (義尚)
松下 晋也 (真明)	浅田 雅世 (光雅)

得度式役割 (敬称略)

〔戒師〕 今井圓明  
 〔教授〕 山崎泰廣、頼富本宏、野口圭也  
 〔証明師〕 嶋 裕海、北尾隆心、都筑大乗

宇垣泰明、沖津祐照

〔助法〕 島田大観、田中密敬、荒井紋子

## 学園加行

平成8年度学園加行は、大本山大覚寺様の御協力を頂き、前期加行が7月30日より9月25日まで行われた。後期は2月1日から3月20日の予定。

〔加行参加学生〕

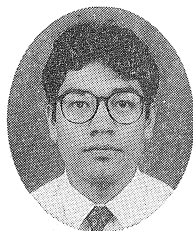
池田 航 (本舟)	生駒 暁 (法圓)
永瀬 勝也 (円瑛)	酒井 崇行 (崇圓)
森 光憲 (光憲)	

## 社会福祉士国家試験合格者

平成7年度合格者 浅野真宏氏 (平成6年3月)  
 若泉博絵氏 (平成8年3月)

これにより、本学卒業生の合格者は、6名となった。若泉さんは現役合格。

## 「種智院大学に留学して」 スダン・シキヤ



ネパールは釈尊の誕生国である。しかしながら釈尊の教えを学べる正統な学校は一つもない。自分がネパール人であり、また、釈迦族であることを誇るために仏教の正確な知識を持つべきだと考える。しかも、ネパールには美術を

はじめとし、世界に誇れる文化を持った国である。それらはほとんど仏教を基本としている。しかし、仏教への認識不足のため正統な意味での発展をせずに、逆に仏教はだんだんと衰退する一方である。今の内に祖先が開いてくれたその道を継承発展させていくように頑張っていかなければならない。そして仏陀の教えをより深く勉強したいと思っていた。このとき、ネパールに調査に来られた北村教授と出会った。北村教授はこの国にある、たくさんの古い仏教寺院の儀式を調べられ、

寺には古い立派な仏像や経典があるのに研究する人もなく、ただこのままで放っておくと、ネパールの持つ偉大な文化遺産、釈尊の国というイメージすら薄れてしまうようになると、非常に心配もされていた。そして、私に対して、この道の勉強を勧めて下さった。それで種智院大学へ進むことになった。この学校は古い伝統があるので仏教を通じ、深い知識と教養を身につけたく考えている。

美しい桜が満開の今春、私は留学生として、この大学に入学した。そして、早や晩秋の季節になり、私の日本での生活も半年が過ぎようとしている。最初は学校や授業の内容に慣れにくかった。私は一人ぼっちになるかなとずいぶんと心配していたが、皆様のおかげでその状況まで至らなく、とても幸せに思っている。今は一回生であるから専門の勉強まではまだ進んでない。しかし、多くの学生達と親しくなり、互いの交流をとおして、仏教に関する理解を深めていくつもりである。やがて、この勉強が三年後、四年後にどのくらい高めて行くことが出来るかが、私に与えられた課題であると考えている。

## 種智院大学公開講座

1996年10月～1997年2月

## ◆仏教・密教シリーズ

〔一般来聴歓迎〕

最近のインドの遺跡発掘状況 一とくに密教系遺品について

種智院大学教授・仏教学部長 頼富 本宏

10月21日 (月) 11:30～12:30

外モンゴルにおけるラマ教寺院について

種智院大学教授 北村 太道・同大教授 中村 幸子

12月21日 (土) 11:30～12:30

『法華経』と中国仏教

叡山学院教授・学監 坂本 廣博

1月21日 (火) 11:30～12:30

慈悲の習得 (修習) について

種智院大学教授 沖 和史

2月21日 (金) 11:30～12:30

# 観善和尚著作集の発刊

蓮生観善和尚は、明治・大正・昭和の三代に亘り、学徳兼備の高僧として、宗の内外を問わず名を馳せられました。密門、長大僧正等高僧名僧方に師事或いはご薫陶を受け、自宗の最高学府のみならず、他宗の大学に遊学、事教二相を極められております。ご研鑽後宗政家、文筆家として大成され、明治末から宗務の枢機あるいは宗教誌の主筆として、また晩年は普通寺派管長として祖風の高揚に、後進の指導育成に日夜尽瘁されました。

その間の著述は、事相教相のみならず、宗論あるいは道德論と多岐に亘り、不朽の業績を残されております。この度ご自身の発刊になるもの、各本山、宗教誌又は有識者の編集になるもの、未刊行の草稿を一括し、下記分類のもとに著作集として編集刊行する運びとなりました。貴台におかれましては、二利円満、教化の資として座右に加えられることを念願して止みません。

巻数	篇	書目	配本 頁数	備考
一	(一)史伝篇	弘法大師伝	一	この巻のみ別売可 4,000円 送料 1,600円
二	〃	弘法大師御伝記 (シナリオ) 釈尊の諸大弟子 他十六篇	二	既刊
三	(二)教理篇	九條錫杖経 真言宗大綱 他四篇	三	
四	(三)実践篇 (四)願文追悼文	御修法縁起 庭儀曼荼羅供要記 他十四篇	四	平成八年 刊行予定
五	(五)論説篇 (六)隨筆紀行・ 手記篇	宗教法研究 弘法大師と文化 他七篇	五	既刊

装丁 A5判 布装上製本 箱入 第一・二・三・五巻は既刊  
頒布価格 ●全巻 34,000円 (送料 2,000円)  
●第一巻除く場合 30,000円 (送料 1600円)

一巻 宗内の大師伝中の白眉と目されている和尚の「弘法大師伝」を収む。和尚が古今の資料を通覧された史実を基に詳述され、弘法大師への篤い思慕の念の具現であります。

二巻 「釈尊の十大弟子」「弘法大師御誕生所善通寺」「増叫」「宥範」「仁海」僧正小伝記等十八篇を収録。

三巻 教理に対する和尚のご造詣の深さが偲ばれる「九條錫杖経」「真言宗大綱」等四篇を収録。

四巻 (三)実践篇と(四)願文追悼文篇とを載せ、(三)には「御修法縁起」「庭儀曼荼羅供要記」等の法要、修法に関する秘伝、口決を収録。(四)には日常の法要に係る願文、追悼文、諷誦、唵嚩文を収録。

五巻 (五)論説篇と(六)隨筆、紀行、手記篇を載せ、(五)は「宗教法研究」「弘法大師と文化」等、師の宗教心、お大師さまへの思慕或いは宗制に対するご意見を収録。(六)は師のご人格をうかがうに好選の資料、日々綴られたご感想、思い出の記等を収録。

# 『長谷寶秀全集』 卷六 別冊

## ◆全巻の構成

### 第一巻

#### 遺墨集

解説||児玉義隆

#### 論文集

解説||頼富本宏  
今井淨圓

●刊行の趣旨

●長谷寶秀先生の略伝・著作目録

●遺墨(写真と所在)

●長谷寶秀先生の思い出

●長谷寶秀先生の論文集

### 第二巻

#### 大日経疏玄談

解説||山崎泰廣

#### 十卷章玄談

解説||北尾隆心

#### 般若理趣経分科・同末釋

解説||北村太道

#### 釋摩訶衍論玄談

解説||添野智謙

### 第三巻

#### 大疏秘記集

解説||山崎泰廣

### 第四巻

#### 大師御請来

#### 梵字真言集

解説||児玉義隆

### 第五巻

#### 大師御請来

#### 梵字真言集

解説||野口圭也

### 第六巻

#### 四度加行指南者

#### 意得要略

解説||加藤宥雄  
上田靈城

別帙(六冊)

#### 三宝院流憲深方

#### 四度次第

## ◆推薦

真言宗長者・総本山仁和寺門跡

#### 吉田 裕信

総本山善通寺前法主

#### 蓮生 善隆

真言宗智山派管長

#### 高井 隆秀

真言宗醍醐派管長

#### 麻生 文雄

高野真言宗宗務総長

#### 新居 祐政

真言宗豊山派宗務総長

#### 鳥居 愼譽

智山伝法院院長

#### 宮坂 宥勝

日本密教学会理事長・高野山大学教授

#### 松長 有慶

高野山大学学長

#### 和多 秀乗

### —特別割引価格申込締切延長のお知らせ—

定価120,000円(税込)のところ

**予約特別  
割引価格**

96,000円 (二割引・第一回配本時一括払い)

108,000円 (一割引・各配本時三回分割払い)

特別価格申込締切…平成八年十一月末日

種智院大学の密教資料研究所では、碩学長谷寶秀先生の事教二相にわたる研究成果を集成した全集を刊行すべく、現在印刷中です。過日、特別割り引きでの予約を御案内したところ、多大の反響があり、申し込み締め切りを十一月末日まで延期します。

真言密教の貴重な成果を是非御申し込み・御利用下さい。

## 種智院大学密教資料研究所

TEL 075-681-6513  
FAX 075-681-5651